



光桂寺だより

第217号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

春の永代経ご案内

あつという間に桜の花が散ってしまい、駆け足で初夏の兆しとなり、若葉が目まぶしい季節となつて参りました。皆様如何お過ごしでしょうか。

二〇二一年になり早くも四分の一が過ぎました。大きな問題となつている「新型コロナウイルス」は、依然として終息の気配も見えず、どうなることかと心配の種であります。

そして今年最大のイベント「オリンピック、パラリンピック」は、どうなることでしょうか。国際社会では依然として感染の拡大で出入国の制限もあり、国内外とも、今後の動きに目を離せない状況という所でしょう。ともあれ、しっかり見つめる事ができる心や目を、育んでいくことが大事なことでないでしょうか。

いまこそ心の「確かな目」を求めていくことが重要となります。それには自分自身の存在をまず見つめること、明らかにしていくことが大切ではないでしょうか。煩惱の中でしか生きていけない私たちであり、また生かされて生きている身に気付かされることから、「確かな目」が芽生え育つのではないのでしょうか。

まずは私の姿に「気づく」ことから真宗の教えへの出会いが生まれてくるのであります。例年のように今年もまた、春の永代経を勤めることとなりました。お忙しいこととは思いますが、お練り合わせの上ご参詣くださるようご案内申し上げます。

期日二〇二一年五月八日(土)

○おとき 正午

○おつとめ 十三時

○法 話 十四時

講師 蓮明寺様

※お世話前 末次
よろしくお願ひいたします。



講師紹介
溝 邊 伸 師
みぞ べ しん

久留米教務所駐在教導、
久留米市宮ノ陣町
「蓮明寺」住職

略歴

一九七七年大川市生まれ、東洋大卒、旧姓豊田。
地方紙「有明新報」記者、経済紙「福岡市政」記者
を歴任、九州教学研究所久留米分室主任研究員を経て二〇一五年より久留米教区駐在教導。二〇二〇年
五月、三井西組「蓮明寺」住職就任。

永代経志ご寄付者ご芳名

誠にありがとうございました。

二 月
四 月

様 様 様

新年度(二〇二一年度)役員紹介

○光桂寺総代会役員

・責任役員

若菜久光 住職 廣瀬哲之

住職代理 廣瀬 啓

・光桂寺総代

若菜久光 山下睦雄 廣瀬勝栄

井手 巽 末次勝行(会計)

・門徒会員

山下睦雄 井手 巽 松島和江

○光桂寺門徒会総代

八坂 弓削紫朗 十楽 牟田征夫

京手 牟田和久 末次 末次一信

団地 今村義之

○婦人会役員

会 長 井手 睦子(平方)

副会長 鶴本 容子(末次)

会 計 高松可奈子(馬渡)

庫裏建設について

○経過報告

・三月二十八日の総会において「庫裏建設」の承認を得ました。

・四月三日の光桂寺総代と庫裏建設委員会の合同会議で、懇志金の集約の方法等について、骨子がまとまりました。この案を門徒会総代会に諮り決められます。

・四月十七日に建設委員会が開かれました。

《婦人会講師講話》

三月十七日、光

桂寺仏教婦人会の

総会で、講師の

「蒲原稔彦」先生

が話されたお話を、

住職が要約してみ

ましたのでお読み

ください。



他力と自力

他力という言葉は、他人まかせの人に依存する生き方だと誤解されています。私たちの暮らしは、様々なご恩を受けています。まず心あるもの、つまり人からの恩です。別の言い方をすれば生かされているとも言えます。それを仏教では他力とは言いません。しかしご恩に感謝するのは大事で、様々な人のご恩には、おかげさまと常に感謝の心をもって接するのは極めて大事なことだと思います。

さらに考えますと、天地自然の恩恵を授かって生きている、生かされているというふうにも言えるわけです。しかし自然の力ですからそういうのを仏教では他力とは言わないのです。

親鸞聖人は「他力というは如来の本願力なり」と言われています。これは阿弥陀如来の本願の力のみ他力というのであるとの教えです。では阿弥陀仏の本願力とは一体どういう力なの

か、親鸞聖人はこのように言われています。

無明の闇を破る力、これが阿弥陀仏の本願力の力(他力)なのだといわれているのです。無明とは、明かりがないということで、なんとなく安心出来ない、何をやっても寂しい、そういう心を仏教では無明の闇といいます。不安をぶち破って絶対の幸福にする力を他力というのです。

自力の心とは、自分の価値判断基準を唯一のものさしに考えていくことであります。そこから、不安や迷いが生じてきます。人間の迷いは、真実の自己を知らないことから生じます。それゆえに、自己に執着し、自他を分別して生きているのです。愚かしいとしかいいようのない私であったということに目覚めることを、信心をいただくというのでしょうか。まさに慙愧の世界ではないでしょうか。

人間に、無明の自覚、愚の自覚を与えることこそ、如来の大悲であったのです。悩みがなくなるのではなく、悩みではなくなる世界が信心の世界でありましょう。そこには歓喜の世界が開かれます。

せつかく気づきの世界が与えられていながら、色んな問題とか、苦悩の原因は外からやってくるんだと考えて、排除してしまつて、自分を問うということをやらない。そこに現代の問題があります。

私たちの人生が、慙愧と歓喜の交錯する、念仏者の人生となりたいものです。

《再掲載》
**総代さんの役割は
 こんなことです**

(光桂寺だより二二二号に掲載分)

総代さんの交代があると、どのようなことをするのか分らないという声を聞きますので、ここに光桂寺総代、光桂寺門徒会総代さんの役割を示してみたいと思います。

それぞれの「会」の役割

一、光桂寺総代会の役割

光桂寺門徒会総代十名のうち、五名の光桂寺総代の役割は

- ① 光桂寺の運営に関する事項を審議し決めていく。
- ② 門徒会総代会へ提示する事項を審議し決めていく。
- ③ 門徒会総代会に提示する事項を決めていく。

二、光桂寺門徒会総代会の役割

光桂寺門徒会総代のうちの、光桂寺総代以外の五名の役割は

- ① 光桂寺総代会から付託された事項を審議し決めていく。
- ② 審議した事項によっては、光桂寺総代会に提案し、総代会に提示する。

それぞれの「総代」の役割

三、光桂寺門徒会総代の役割

光桂寺門徒会総代十名の役割は

- ① 地区役員の変更時、取りまとめをし、引継ぎを指示する。
- ② 各担当地区で、光桂寺総代会や門徒会総代会より示された伝達事項を伝える。
- ③ 各地区の意見を取りまとめる。

・総代会から示された案件で、意見集約を託された事項をとりまとめる。

・各地区からの意見があればそれを取りまとめ、門徒会総代会や光桂寺総代会へ提示する

- ④ 各地区の納金等の取りまとめ（集金）を行う。
- ⑤ 光桂寺の法要で、御世話前を担当する法要には必ず出席する。

・受付などを担当して取りまとめの役をする。

- ⑥ 光桂寺だよりや配布物の配布をする。

光桂寺と門徒会の関係は
 「並列の関係」です。その役割は

「門徒会」

- ・ 護寺のための財政面での援助を考える
- ・ 聞法に励み真宗のみ教えをいただき、お念仏を申す人生を歩むことを確認しあう

「寺」

- ・ 人間相互の信頼関係を確立する寺

- ・ 信仰の中心の場（聞法としての道場を開く）

- ・ ご法儀の流布（真宗の教えを広める場）
- ・ 法人財産の保全維持（道場の維持保全）
- ・ 寺族の生活の確立

「門徒」

- ・ 寺の護持（経済的支援―浄財）
- ・ 本山の護持（本山維持の浄財上納）
- ・ 信仰を深める（問法を深める生活で信仰を確立していく）
- ・ 各家庭での信仰確立（本来あるべき家庭の確立）

本堂手すり完成

本堂への昇り階段中央に、写真のように手すりが設けられました。どうぞご利用下さい。



◎ 宗教法人光桂寺に関わる 記憶に留めたい諸事項

一、宗教法人について

① 収入 布施、寄進、永代経志、門徒会計収入等全て法人会計の収入と見なされる。

これらの収入については無税である。

・ 布施会計

・ 永代経寄付会計

・ 門徒会計

② 支出 収入の中から、寺の維持管理などの寺に属する支出については無税である。

(ただし消費税は支払う)

・ 有税となる会計

・ 布施会計人件費

(布施会計の五十%前後)

・ 無税となる会計

・ 布施会計

・ 永代経会計

・ 門徒会計

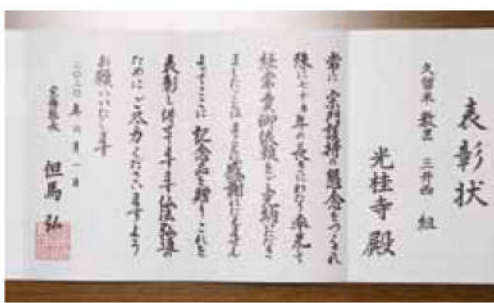
◎ 収入三会計を合算して収支を県へ報告

③ 財産 登記されているものが全てが光桂寺の財産である。個人の財産ではない。

- ・ 本堂、庫裏、住居、保育園、上西の土地建物

本山納金連続七十年 完納の表彰を受けました

本山への上納金を、七十年の間完納しましたので表彰を受けました。これはご門徒皆さん方からご懇志をいただいた賜物であります。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



誕生お祝いの会について



四月十一日のお祝いの会記念写真

今年の該当の方、誕生おめでとうございます。

保護者のお名前	お子さんのお名前	住所
寺崎 祥太さん	寺崎 さん	加古川市
牟田精一郎さん	牟田 さん	うきは市

お内佛のお飾りでの注意点

「華瓶」には「しきみ」を挿しお水を入れま
す。これが真宗のお作法です
「湯のみ」「コップ」で「お茶、お水」は供
えません



謹んでおくやみ申し上げます

二月 三日	宇佐市
二月十二日	八坂
二月二十日	馬渡
二月二十二日	十楽
四月 二日	杷木